「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫

▼▲▼

◇◆◇　No.0850　◇◆◇　　25/07/23

【　選挙 3 連敗だが、石破首相は「続投」に意欲　】

「事前予想どおり」－－の話だったが、20 日に投開票された参院選で与党・自民党は「大惨敗」を喫した。自民党の獲得議席 39 は過去 3 番目の少なさであり、公明党の 8 議席は過去最低になる。
しかし、投票直前になり、石破首相は当初想定していた勝敗ライン「50」を勝手に引き下げ。ゴールポストを動かし「45」議席としたことで、「ヒョッとすると参院選で負けても居座るつもりかもしれない」と一部で指摘されていた「イヤな予感」が、なんと現実のものとなりそうだ。以下では予想される今後の展開と、為替・金融市場への影響を考えてみたい。

◎本人に辞意の意思なければ、首相交代はなかなか困難

6 月 11 日付の当レターでも報じているように、今回の参院選は全体の議席 248 のうち半数の 124 が改選されるものだった。したがって、一般的にも認知されている「勝敗最低ライン」は、自民党と公明党という与党 2 党での過半数（125 議席）維持になるわけだが、非改選議席が自公ですでに 75 持っていた。つまり、今回の選挙において「自公で 50 議席」をとればトータル 125 議席で、なんとか大勢を死守することはできたわけだ。
よって、石破氏自身も当初は勝敗ラインを「50」と口にしていたわけだが、12 日付けの「文春オンライン」では、「自公で 45 議席取れれば･･･」と勝手にゴールポストを動かし、目標を下方修正したと伝えていた。

自分たちに都合の良いことだけを知らせる「お抱えの世論調査」がまったく信用できず、それほどの危機に陥っている「現実」を認識した途端の所業。悪あがきも著しいと思うのだが、本当の悪あがきはそのあとに待っていた。
そう。ご存じのように、参院選で自公併せて 47 議席という「大敗」を喫したにもかかわらず、平気の平左で石破首相が「続投」を宣言したことになる。

新聞やテレビそのほかで伝えられ、ご存じのことも多いと予想されるため、詳細は省かせていただく。しかし、2007 年の参院選で安倍元首相が負けたあと、石破氏が 「責任を取るべき人が取らないのは組織ではない。その責任を追及する声が上がらない組織は病んでいる。このまま追及する声がないようなら、そんな党は存在意義がない」と述べたうえで、「わたしだったら即座に辞めて、落ちた人のところに謝って回る」－－と安倍氏を強く糾弾していたことだけは指摘しておきたい。
まさに特大ブーメランで、厚顔無恥とは石破首相のためにある言葉かもしれない。

いずれにしても、石破首相が「続投」を宣言する反面、麻生太郎・自民党最高顧問や青山繁晴・自民大阪府連会長、河野太郎・元デジタル相－－などが公然と批判。細かい文言はともかく、「続投は認めない」という見解をそれぞれ口にしているが、実をいうと「首相」を辞めさせるのはそう簡単ではない。
曲がりなりにも日本のトップ、最高権力者ということで、「自分で辞める」と言わない限り、法的には辞めさせる手段がさほど多くないのだ。

もっとも簡単かつわかりやすいのは、内閣不信任案の提出。そして賛成多数で可決することだが、当然これは国会開会中しか提出できない。
そして、現在は国会休会中のうえ、かつ提出できるのは自民党と立憲民主党だけだが、前者が提出することは基本予想しにくい。つまり、キャスティングボートを握っているのは、間違いなく立憲民主党なのだが、果たして内閣不信任を提出することが出来るのだろうか？参院選翌日、21 日の産経新聞では「立民、参院選は『負け』と受け止め『不信任案どころでない』」－－と、かなり悲観的に報じていたが果たして如何に!? ちなみに、臨時国会は来月 1 日に召集される見込みとなった。

一方、それとは別に自民党の党則 6 条をもとにした「首相解任」論を指摘する声が一部にあるが、これは間違っている。何故なら、こちらは先で記したように「自民党の党則」であり、一国の首相人事が決定されるものではない。
もちろん、やり方次第では石破氏を自民党総裁から降ろすことはできる。しかし、その場合でも「石破首相」

FX newsletter

であることには変わらない。「石破首相」と「石破自民党総裁」がイコールではなくなるというだけだ。

これまで長年の経緯から考え、「それはおかしい」あるいは「ルール違反」、「許されない行為」――などという声も当然あるだろうが、すでに衆院選、都議選、参院選と重要な選挙に 3 連敗したにもかかわらず、首相の座にしがみつく石破氏の態度そのものが、すでに「ルールを無視している」のではないだろうか。
つまり、「なんでもアリ」なのが石破流であり、世の常識なんぞは通用しないと考えておいたよいだろう。自民党総裁ではなくなっても、日本国首相の座に石破氏が居座り続ける可能性も存外高いような気がしてならない。

ともあれ、「本人による申し出」を引き出せない限り、かくの如し石破氏が首相の座から降ろすことは非常に難しい。頑固に退任を拒めば、なかなかそれを覆すことはできないというのが実情だ。
そして、次の首相が誰になるのかはさておき、新たな人物となれば、金融市場においてはご祝儀的な動きも含めて様々な「期待先行」の動きが予想される反面、現行の「石破首相」を引っ張り続けるとなれば、内政・外交とも大きな政策の刷新は期待しにくい。話を為替に限れば、先週などにもレポートしているように、市場の関心は「ユーロ」を中心とした動意で、ここ最近のドル/円は蚊帳の外といった印象も。そんな状況が、この先も思いのほか長いあいだ続くことになりかねないというリスクがありそうだ。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright （C） fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter